

2017.7.9 年間第 14 主日

休ませてあげよう

マタイ福音書 11 章 25-30

そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

説教

「わたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」

イエスさまはこう呼びかけられています。せっかくですから、休ませていただきます。休みましょうよ。

そうは言ってもウツカリ休んでいるとあとが大変になります。学生さんだったら授業を一回休んだら、そのあと授業においついていくのに大変になります。仕事でも休んでいると仕事がたまってあとが大変です。現場仕事している人ならほかの人に迷惑がかかったり、シワ寄せがたって、人間関係がぎくしゃくするかもしれません。時給支払いの仕事だったら休んだ分だけ収入が減ります。そうそう休んじゃいけないのが世の中です。

相撲がある月はお休みと言っている人がいました。それを聞いてわたしもそうしたいと思いましたがなかなか難しく、せめて奇数月には歯ブラシを新しくしようとトンチンカンに決心したことを思い出しました。

さて、イエスさまは休め休めと言っているだけでしょうか？

自分の背負っている重荷をおろしなさい。そして、わたしの軛を負いなさい、わたしの荷は軽いよ、とっています。

休め休めというイエスさまが浮世離れしているのではなくて、そうそう休んじやられないと思っているわたしたちこそが現実から離れてしまっている、イエスさまこそがほんとうに生きていて、わたしたちは誤った生き方をしている、こう考えるとピントが合うようにおもいます。

ところで、イエスさまが負っている荷とはなんのでしょうか？

一言でいえば神の御心の実現です。それをイエスさまは定められたとおりのやり方で十字架上で成し遂げられました。わたしたちが自分の重荷をおろしてイエスさまの荷を担ぐこととは現実的にどんなことでしょうか？

もちろんイエスさまと同じように十字架にかかることではありません。そこまで神さまはわたしたちに期待していません。神さまがわたしたちに期待しているのは御心の実現でしょう。それは一人ひとりを違う人間としてお造りになった神がそれぞれ一人ひとりに込めた思いの実現が神の御心だと思えます。まずはその神さまの思い、御心をわたしたちが聞き取ることが必要でしょう。そのためにもイエスさまのところでゆっくり休むことから始めましょうか。
